

市議会，自治協議会の意見

1 市議会からの意見

	意見等	審議会の考え方
1	審議委員に是非現地をよく見てほしい。	平成 21 年 10 月に 55 校を視察しました。
2	通学距離の基準を超えるところが多くなると思うので，全体のどのくらいの学校が基準を超えるか出していくべき	学校の位置は具体的に適正配置をすすめる中で地域の皆さんと決めていくべきもので，審議会では示さないことにしました。 そのため，通学距離は計測できません。
3	学校の位置について	参考として，通学区域の広がりを示す資料を作成しました。
4	新聞で案が確定したかの様な報道があり市民が心配している。	自治協議会に説明したほか，要望がある地域には，地域コミュニティ協議会単位で事務局が説明しています。
5	市民はだいぶ関心を持っているので，審議のプロセスを十分説明していく必要がある。	
6	開発の影響を考慮してほしい。	方向性の審議では，市内の開発状況の資料を参考にしました。
7	旧新津市での適正配置の方針との整合性はどうなっているか。	旧新津市から引き継いだ事業は実施していますが，審議会では改めて全市同じ基準を検討しました。
8	現在の学校区に配慮するとあったが，未来を担う子どもにとって逆にマイナスではないか。	現在の校区はそれぞれ歴史的経緯に基づいていますし，地域コミュニティ協議会などさまざまな地域団体が小学校区や中学校区を単位としています。
9	地元から，まだ新しい学校の有効な利用方法を教えてほしいという声がある。	答申では，現在の通学区域をもとに，方向性を示すことにしましたが，実際には地域の皆さんと十分意見交換し，協働して新しい教育環境を作っていくことが重要であると考えます。
10	地域との協議が一番最後になっている。市全体に不安をもたせることのないように十分な説明をお願いしたい。	方向性を示すだけにしたので，再編後，どの学校を廃止するかや，その後の用途については審議していません。
11	再編案は，これまでの歴史的経緯，通学距離など配慮していない数合わせではないか。	
12	再編案は審議会の案ということか。	本審議会の答申をもとに，教育委員会が具体的な配置計画を策定する予定です。
13	地域の要望をどの程度聞いてもらえるのか。	学校再編は地域の皆さんとの合意が大切で

		すから，十分協議していく必要があります。
14	答申後に教育委員会で絞り込む視点はどんなものか。	審議会では，検討基準の中で例示しましたが，具体的な視点は教育委員会が検討することと考えています。
15	教育は大事で，予算は減らしてはいけない。 将来を担う子ども達にいい教育を受けさせるようもう少し時間をかけて考えるべき。	答申を基に教育委員会と地域の皆さんが十分協議していただきたいと思います。

2 北区自治協議会からの意見書

	要 望	審議会の考え方
1	子どもが学びやすい教育環境とは何かを第一に考えること。	審議会では，教育委員会の諮問により，子どもたちの教育環境を確保することを第一に考え審議しました。
2	地方主権の時代にあって，学校教育法及び学校教育法施行規則に基づく設置基準に地方の裁量が入ることが想定されることから，国の状況を見極めながら新潟市に則した地域基準を検討すべきであること。	現行制度のもとで検討することにしましたが，今後国の制度が変更される場合には，必要に応じて本答申を見直すことも考えられます。
3	学校は地域の伝統文化を活かした特色ある教育活動を行っており，また地域では，学校行事への参加や通学路の見守り活動などの協力を行っていることを踏まえ，学校と地域の協力関係を十分尊重すること	学校と地域のつながりはとても重要なものと考えています。学校の適正配置をすすめる場合には，教育委員会は，地域の皆さんと十分協議して合意を得る必要があると考えます。
4	地域コミュニティ協議会の活動範囲が小学校区または中学校区を基本としている現状を十分に踏まえること。	地域コミュニティ協議会の活動範囲を考慮し，現在の小学校区中学校区を基本として適正配置の方向性を検討しました。

3 区自治協議会の意見（議事録より抜粋）

ご意見の概要		審議会の考え方
地域との関わり		
1	地域コミュニティを基に、地域の活動が成り立っているため、相当な時間をかけなくてはさまざまな問題が起こる。	現在の校区がそれぞれ歴史的経緯に基づいていることや、地域のまちづくりを進める地域コミュニティ協議会などさまざまな地域団体が小学校区や中学校区を単位としていることなどから、本審議会としては、適正配置を現在の小学校区、中学校区で考えることとしました。 少子化が進む中で、学校規模の確保は大きな課題で、地域の皆さんから理解と納得をいただくまでに十分な意見交換が必要です。それぞれの地域で適正配置を行う場合には、学校を支えてくださる地域や保護者、地域団体の皆さんと十分協議した合意の上で、協働してより良い教育環境を創っていただきたいと思います。
2	機械的に線引きするのではなく、地域住民の声を十分に聞きながら進めてほしい。	
3	地域がもめることのないようお願いしたい。	
4	コミ協との関係は検討されたか。	
5	小学校区を単位としているコミ協が地域と学校との連携の中で真剣に考えていかなければいけない。	
6	学校というものは、地域の基となっていて、子どもは地域とともに育つという意味で、学校と地域は深く関わっている。コミュニティ協議会を小学校単位で設立する中で、コミュニティ協議会と学校という組合せもある。	
7	小中学校は、地域コミュニティを形成するもっとも基本的なもの。学級数の数合わせになっているがそこへ行くまでの歴史、伝統などがどうつながっているのか。	
8	新たにコミュニティ協議会という要素が加わってきているので、そのコミュニティ協議会を除外して検討することはできない。	
9	学校は地域活動、まちづくりの核であり、地域教育の拠点でもある。単なる児童生徒数の数合わせではより良い教育環境づくり、まちづくりは決してできない。	

10	再編学校の位置はいつ示されるのか。	<p>学校再編後の施設の活用方法は行政が十分協議をしていただきたいと思います。</p> <p>地域の皆さんの総意が得られ、学校再編が行われるまでには、相当な期間が必要と思われることから、再編校の位置は示さないことにしました。</p> <p>通学の距離や方法については、国の基準を基本として、なるべく歩いて通学できることが望ましいですが、学校再編により徒歩の通学が困難になる場合は、スクールバスなど配慮する必要があると考えます。</p>
11	校舎の位置や、通学距離や方法は考えたか。	
12	一つの学校に統合するのではなく新たに学校を設置するべきではないか。	
13	小規模校は、地域全体で協力し、守り育てていくための工夫が必要。	
14	地域は小学校などを中心に成り立っており、精神風土はそこからできている。適正配置の考え方は理解するが、地域の歴史や地域づくりを抜きには考えられない。	
15	地域のシンボルとしての交流の場・避難所の学校が廃校になると地域の活性化に影響を及ぼす。	
16	地域から学校が無くなるのは、文化が無くなること。 何か救済策はないかと思う。	
17	地域の歴史、伝統、文化が積み重なっているのでは、慎重にやってほしい。	
18	規模のことばかりで、地域性とか歴史的なことは一切お話がない。	
19	本当に地域の皆さんと行きとどいた教育をやりようとするのなら、中に入って議論すべき。	
20	審議会委員にPTA連合会長等が入っているが、地域には、何も伝わっていない。	
21	PTAや地域にも意見を聞く機会を設けるべき。	
22	地域の代表として、コミュニティ	

	協議会や自治協議会の委員を入れるべき。	
23	新潟市は「協働のまちづくり」と言っているが、何もしていない。	諮問外のご意見と考えます。
24	分離の場合、コミ協や育成協の構成単位が変わるが取り扱いはどうなるか。	実際に再編が具体化する中で、地域と行政が話し合い、それぞれの地域にとってよい形になるようにしていただきたいと考えています。
25	再編により、通学区域が変更になる状況を考え慎重に進めてほしい。	適正配置の実施にあたっては、地域の皆さんと十分協議してほしいと考えます。
26	地元にも説明をお願いしたい。	要望がある地域コミュニティ協議会単位で事務局が説明しています。
子どもたちの教育環境について		
27	本当に子どもたちのことを考え、行き届いた教育をすることを第一に考えるべき。	目指す教育のあり方と子ども像については、新潟市教育ビジョンで示されています。子どもたちは、ある程度の人数がいて多様な人間関係がある環境の中で揉まれ互いに成長していくことが望ましいと考えます。公教育を行う上で、子どもたちにとって公平で良好な教育環境を作ることが大切です。
28	重大な学校の統合問題を拙速に進めている。 子ども達のための教育を考えてほしい。	
29	統廃合の問題より、どういう教育を目指して、どういう子どもを育てていくのが優先ではないか。 統廃合の問題より、子どもたちに何をすべきかが、一番ではないか。	
30	学校内で異なる環境の児童が一緒になった時のことを考えていただきたい。	学校再編の場合、子ども達や教員、地域の皆さんが新しい学校づくりに参画し、行事などで事前交流を図っていくことが大切だと考えます。
31	いい学校教育をするためにどうしたらいいか、皆で話し合っていくことは可能か。	
32	小学校の通学範囲は、歩いて通える範囲が望ましい。	小中学校は、なるべく歩いて通学できる距離が望ましいと考えますが、適正配置により通学の距離が長くなる場合は、通学の安全・安心に配慮する必要があります。
33	人が少なくなっている地域の小学校と中学校の統合など審議があったか。	本来全市のすべての小中学校が「新潟市の適正規模」であることが望ましいと考えます。

	<p>(小中一貫校)</p> <p>現在の小学校区，中学校区を基本として考えるのであれば，一貫校をつくることを一つのステップとして考えてもいいのではないか。</p> <p>地域の理解を得るための第一ステップになる。</p>	<p>新潟市では，中学校区ごとに小中学校共通の「目指す子ども像」を設定するなど小中一貫教育をすすめています，一貫校については教育委員会の明確な方針が示されていませんので検討の対象外としました。</p>
34	<p>示された案は単に数合わせなのか。一貫校などどこにも出てない。</p>	
35	<p>統合して大規模な学校になる。</p> <p>大規模校に馴染めない子どもが自由に学校を選べるようお願いしたい。</p>	<p>学区外就学という制度があり，教育委員会で対応しています。</p>
<p>国や県の制度との関連について</p>		
36	<p>学級の生徒数について，国の基準を前提にしているのか。</p> <p>何が望ましいのかという観点から議論があったのか。</p>	<p>本審議会では，国と県が定めている現行の学級編制制度の下で適正配置を考えることにしましたが，学級の人数は教育の効果や学級活動の面で大事な要素と考えますので，1学級の人数が40人の学級について，40人未満になるよう行政努力を求めます。</p> <p>公教育として，全市同じ基準が公平性の点で必要ですが，適正配置にあたっては，地域の総意を尊重していく必要があります。</p>
37	<p>40人学級の前提はおかしい。30人学級にしていきとどいた教育をしたらどうか。</p>	
38	<p>地方と国の関係の中で，クラスの設置基準は都市自治体に任せるべきであり，分権型政令市の教育委員会の考え方を持つべきである。</p>	
39	<p>新潟市の地域特性として，一律の基準にすることは公平ではないので，新潟市独自の基準を考えて欲しい。</p>	
40	<p>国の基準ではなく，原則，地域コミュニティの範囲に中学校や小学校が1校以上存在するという「地域基準」を持つべきである。</p>	
41	<p>少子化の時代だからこそ，子どもの単位に学級数などの単位を合わせるべきである。</p>	
42	<p>合併した後の新たな基準を設けるべきではないか。</p>	
43	<p>施設整備について，今の補助金の</p>	<p>新たな基準として「基本的な考え方」をまとめました。</p> <p>施設整備の方針については，諮問外です。</p>

	制度の中だけでやるのか。	
スケジュールや進め方について		
44	住民説明に入った時にはほぼ決定しているといったケースは避けてほしい。	答申では、学校の適正配置の新しい基準を示しました。今後教育委員会が具体的な計画を策定すると思いますが、学校再編では、地域の皆さんと十分意見交換を行い、検討を重ねてほしいと思います。
45	答申を受けて、地域とコミュニケーションを図る機会があるのか問題だが答申は重いものでやはり基本になる。	
46	答申が出たら必ずこの形ですめるのか。	
47	答申が出てから、想定された統合について、その学区の関係者とよく相談し、その地域としての教育をどのようにしたら一番いいのか、ある程度の数で教育を優先するか、それとも別のものを優先するか、または、その地域のコミュニティ活動や社会の繋がりなども併せながらやっていくことを優先するかといった話し合いをする機会を設けるべきである。	
48	答申あるいは見直しまでに、区自治協議会がどのような関わりをしていくのか。	中間報告と方向性（案）について、ご意見を伺いました。
49	教育委員会が配置計画を策定したあと、地域への説明、協議はどのような形で行うか。	諮問外の質問で教育委員会の役割と考えます。
50	地域住民のコンセンサスを十分に頂いてから、実施計画をまとめてほしい。	
51	答申が出た後に説明に来るなど、フィードバックしてくれるか。	
52	なぜ子どもの数が減るのか、どうしたら教育環境が良くなるか地域から（審議会を）立ち上げるのであればわかる。	本審議会では、教育委員会の諮問により、任期の中で市全体の学校配置の基準を答申しました。 少子化が進む中での具体的な対応については、それぞれの地域の皆さんと十分協議していく必要があります。
53	平成 22 年 4 月予定の答申は、地域の声を聞いてからにすべきで、答申時期をもっと延ばすべき。	

54	<p>これだけ大きな課題を2年でやるのか。</p> <p>答申は必ず独り歩きする。</p>	
55	<p>都市計画の問題からも検討しなくてはいけない。</p> <p>現在（推計できる）の数だけで済まない問題があると思うので大きな視野でやってほしい。</p>	<p>少子化がすすむ中で、より良い教育環境を創る視点から検討しました。</p> <p>今後の都市計画の問題については諮問外のご意見です。</p>
中間報告について		
56	<p>中間報告 15 ページ 地域の理解が大切と言っているのなら、学校再編で配慮する事項の項目を最初に持ってくるべき。</p>	<p>答申の構成を検討する中で配慮しました。</p>
57	<p>中間報告の「進める」と「強く進める」とどう違うのか。</p>	<p>中間報告をまとめる際に、緊急性の違いを区別した表現にしました。</p>
その他		
58	<p>6年後ではなくもう少し先、15年、20年先のについて検討推測されたか。</p>	<p>少子化がさらに進むと思いますが、現在予測できる6年後の児童生徒数で検討することにしました。</p>
59	<p>越境入学をする子どものために、児童数が減っている。</p>	<p>本審議会では、学校の適正配置を検討する上で、学区外就学（越境入学）については、現在の新潟市の制度で認められているものはそのまま検討しましたが、学校規模の平成27年度推計では、個人的理由による学区外就学はないものとして、算定しました。</p>
60	<p>少子化がさらに進むと予想しているが、今、考えていることがさらに変更になるのではないかと懸念している。</p>	<p>少子化が進む中で、学校の適正規模を確保することが教育環境の上で大切と考えますが、具体的には地域の皆さんと十分協議していく必要があります。</p>
61	<p>山ノ下小学校について、桃山小学校をもう少し飛行場側へ移転させればうまくいくのではないか</p>	
62	<p>統廃合で少子化の問題に拍車がかかるのではないか。</p>	
63	<p>かつて長浦中学校などの統廃合を行ってきた。学校がない世界は考えられないとの意見があるが、現実として統廃合は行われてきた。</p> <p>学校がなくなった地域の方々がど</p>	

	う対応して、どういう思いでやってきたかを判断したうえで提案すべきではないか。	
64	答申前に全市の適正配置を一覧表にして提示し、最終報告を聞く機会を設けてほしい。	審議会の資料は、ホームページや市政情報室で公開しています。
65	亀田東小学校は施設を大きくすることで対応できないか。	適正規模化が望ましいですが、地域の要望にも、十分協議し、柔軟に対応する必要があります。
66	酒屋小学校、割野小学校が統合し、来年度開校する両川小学校は当分統合しないとのことで、期待している。	統合や分離新設は、子どもたちや学校、地域に大きな負担がかかりますので、新たな学校づくりを進める両川小学校は方向性を示さないことにしました。
67	統合の案は、答申が出る前に手を打てば、阻止できるのか。	本審議会では、全市の小規模校と大規模校を同じ基準により適正規模化の方向性を示しますが、決定の案ではありません。教育委員会は、地域の皆さんと十分意見交換をして、地域の総意を尊重していく必要があります。
68	都市計画の線引きの話の時のようになるのだろう。	
69	答申があったものは、すべて実施するのか。	